ハンドボール発展のために

国際競技力向上と登録人口の増加を

(財) 日本ハンドボール協会専務理事　大西 武三

日本のハンドボールの発展状況を示すものとして、国際大会での成績と日本における普及状況をあげることができます。

今年は、世界選手権大会の年です。シニア、ジュニアの男女４種別のうち、ジュニア男子を除く３種別がアジアの代表権を獲得して世界へのチャレンジとなりました。男子はチュニジアですでに終えています。1997年の熊本世界選手権以来、世界への門戸が閉ざされていたのですが、アジア選手権（カタール）において苦しい状況下で代表権を獲得しての出場でした。本大会では、24か国中16位でしたが、予選リーグで優勝したクロアチアに対等の闘いを繰り広げるなど存在感を示し、アジア代表３か国の中で唯一白星２勝をあげています。12月にはロシアで女子世界選手権があります。ベルト・バウワー新監督の世界大会初の采配を期待したいと思います。本年ユース世界大会が新設されましたが、そのアジア予選がタイで６月にあり、男女チームが参加します（男子世界大会本年８月カタール）。またワールドゲームズ・ビーチハンドボールもドイツで開催され、女子日本代表が出場します。世界の強豪が集まる中で是非とも力を発揮して、日本のハンドボールの意気込みを示して欲しいと思います。北京オリンピック予選まで２年余となりました。代表チームの強化を充実させるとともに、将来を見据えて、小学生から日本リーグまで競技者や指導者の強化・育成施策を着実に展開し、プロジェクト21の目標にあるごとく、常に世界大会に出場し、上位の成績をとれる体制を早く実現させなければなりません。

普及状況では、平成５年度の約4700チーム、人口94000人をピークとして減少を続けていたが、２年前より上昇に転じ、16年度最終の登録数は、4277チームと75862人（これ以外にマスターズ414人、ビーチ536人）になっています。懸案となっている小学生の登録では、10年前の96チーム、1823人から増加し続けて今回193チーム、約3970人であり、目標としている3000チームにはほど遠いのですが、確実に登録人口が増加していることを心強く思います。今後更なる努力を重ねて目標を達成し競技者育成の土台の部分を築いていかなければなりません。登録数の上昇に転じたことについて関係の方々に感謝申し上げます。競技者に加えて、がんばれ10万人会サポート会、都道府県役員、審判、指導者で現在91902人の登録ですが、早く10万人の大台にのせたいものです。

最後になりましたが、今年度は氷見市において中学生年代を対象とした全日本中学生選手権大会が初めて開催されます。各都道府県から男女各１チームが出場する大会であり、学校のチームはもちろん、地域で構成されるチームも参加できる大会になります。この大会によって、各都道府県のジュニア層の普及と競技者の育成が図れることになり、日本のハンドボールの振興にとって大きな意義のある大会となります。開催地では、あこがれの大会にしようと日々準備に尽力していただいております。皆さんとともにこの大会を支援し、是非成功させたいと願っております。

平成17・18年度（財）日本ハンドボール協会

役員紹介

役職	氏名	職務分掌
名誉会長	米倉　功	
会長	渡邊佳英	
副会長	山下　泉	
副会長	市原則之	
専務理事	大西武三	
常務理事	村松　誠	総務
常務理事	角　紘昭	普及
常務理事	蒲生晴明	強化
常務理事	江成元伸	競技
常務理事	木野　実	マーケティング
常務理事	川上憲太	日本リーグ・広報
常務理事	平岡秀雄	総務・国際
常務理事	兼子　真	事務局長・会計
常務理事	島田房二	競技・審判
理事	大畑孝広	実業団連盟
理事	福地賢介	学連理事長
理事	森安昭雄	高体連
理事	高山重雄	東北ブロック
理事	西村亮治	東海ブロック
理事	宮元章次	九州ブロック
監事	大野金一	法務
監事	竹野奉昭	全般
監事	殿水幸雄	会計
参事	山下勝司	教職員
参事	佐々木英明	中体連
参事	古屋正俊	高専体協
参事	小西博喜	車椅子
参事	武田節夫	北海道ブロック
参事	稲生　茂	関東ブロック
参事	竹内佳明	北信越ブロック
参事	大羽隆夫	近畿ブロック
参事	野村幹雄	中国ブロック
参事	武田末男	四国ブロック
参事	西山逸成	AHF、アンチドーピング
参事	水上　一	NTS
参事	堀　美和子	プロジェクト21
参事	中野利一	10万人会
参事	上原信子	女性委員会
参事	北村善夫	機関誌
参事	笹倉清則	指導
参事	佐藤　靖	学校体育
参事	本間誠章	ビーチハンドボール
参事	坂本静男	医事科学
参事	大塚文雄	競技
参事	後藤　登	審判
参事	川島克之	審判
参事	大橋則一	マーケティング

女子ナショナルチーム新監督に ベルト・バウワー氏就任

去る5月20日、東京・渋谷東武ホテルにて就任の記者会見が行われた。

女子ナショナルチーム新監督にベルト・バウワー氏（オランダ）が就任した。任期は、暫定本年12月世界選手権（ロシア）までで、成果により延長をする。氏の就任は女子悲願の北京オリンピック出場への大きな布石であると共に、指導者育成のための大きな力になると期待されている。

会見には市原則之日本協会副会長、蒲生晴明強化本部長、荷川取義浩女子ナショナルコーチ（北国銀行）、飛田季実子（ソニーセミコンダクタ九州）、田中麻美（北国銀行）が同席した。

—どんなハンドボールを目指すのか

バウワー　日本には背の高い選手がいないので、スピードで勝負したい。ディフェンスではDFとGKの関係を強化し、アグレッシブな活動をする。選手にはもっと貪欲になってもらいたいし、プレーの選択が早くできるような指導をしていきたい。

—個人的にはどんなタイプの選手が好みか

バウワー　早船選手のようなパワフルで、スピードのある選手がよい。オールラウンドで、ユニークで、次の4つの点を持つ選手を要求したい。①ゴールをしたい選手、②何をしたいのか明確な選手、③やっていて楽しいと思える選手、④ハートでプレーでき、チームの一員としての役割を果たせる選手。

—指導のモットーは

バウワー　プロフェッショナルな指導。チームが勝つためのプログラムを組み実施する、選手がコートでそれを実現するようにすること。

—日本での活動について

バウワー　私が今までに得てきた知識を全て伝えたい。トップチームのプログラムばかりでなく、一般のプログラムについても伝えたい。ヨーロッパではミニハンドから、ナショナルチームの指導をしたし、ルーマニア、スペインなどの様々なプレースタイルの国と関係した。もちろん日本チームが強くなることが第一である。

—日本での抱負を聞かせてもらいたい

バウワー　選手を大きくすることはできないので、スピードアップを図る。ユース時からのスキルアップをする。ギョンナム・アナズヴィルカップではDFのチェックを行いたい。選手育成では自分で考えられる選手、アイデアを出せる選手、判断スピードの速い選手を育てたい。クイックスタート、早い戻りを徹底しDF力の強化、今後GKの役割は益々大きくなるのでDFとの連携も大切にしたい。日本で少しでも長く指導できるようにベストを尽くしたい。

Bert Bouwer
（ベルト　バウワー）

生年月日　1952年1月23日　53歳

国　　籍　オランダ王国

経　　歴

《選手として》
・ナショナル140試合出場
・ヨーロッパの最高峰リーグで14年間活動
・年間最優秀選手受賞あり

《指導者として》
オランダシッタルディアチームで2度国内チャンピオン
1995　オランダ女子Jr. チーム
　　　第10回世界Jr. 選手権（ブラジル）9位
1993　オランダ女子シニアチーム
1998　ヨーロッパ選手権（オランダ）10位
　　　シティカップ（クラブ選手権）決勝進出
1999　第14回女子世界選手権（ノルウエー）12位
2001　第15回女子世界選手権（イタリア）12位
2002　ヨーロッパ選手権（デンマーク）14位

《現在》
2004～デンマークトップリーグ・GOGにコーチとして就任
＊ディベロップメントマネージャー（コーチ・選手の育成）
＊ヨーロッパハンドボール連盟コーチ育成委員会指導者

蒲生強化本部長の話

バウワー氏とは5月13日に正式に調印したところである。彼自身、日本チームについての情報は多く持っていないので、5月末のギョンナム・アナズヴィルカップでの指揮は荷川取コーチがあたる。7月末の全日本実業団で選手のピックアップを行い、強化合宿、ヨーロッパ遠征をして世界選手権に臨む。バウワー氏にはナショナルチームの強化ばかりでなくNTSの指導者育成、日本リーグ、トップ大学の指導者へのレクチャー、コーチングテクニックの伝授にも期待している。

第２回東アジアクラブ選手権大会報告①

メイプル初の東アジア女王 大崎収穫の２位

フリーライター
早川 文司

第２回東アジアクラブ選手権は昨年の韓国から戦いの舞台を中国・蘇州に変えて４月８日から３日間開催された。日本からは男子が日本リーグ初優勝の大崎電気、女子はリーグ７連覇の広島メイプルレッズが出場。韓国と地元中国の３チームとそれぞれ１回戦総当たりリーグを行った。初出場の大崎電気は１勝２敗、得失点差で２位。広島メイプルレッズは強豪韓国に快勝するなど３戦全勝で初優勝した。

女子 MVP とベストセブンに３試合で 29 得点（１位）をマークしたメイプルレッズの金鎭順選手が輝いた。またベストコーチは同じメイプルレッズの平田幸男総監督が受賞した。男子のベストセブンには大崎電気の豊田賢治、ルーキー猪妻正活の両選手が選ばれた。

来年の第３回大会は日本・京都での開催が決定している。

今号ではフリーライターの早川文司氏による大会報告で掲載いたします。次号では帯同審判として参加した福田弘氏のレポートと詳しい大会結果、個人成績を掲載致します。

女子：広島メイプルレッズ強豪韓国に完勝

広島メイプルレッズが日本の女王から東アジアの女王に登りつめた。

この大会にかける執念はすごいとしか言いようがない。林五卿監督の「負けじ魂」が選手全員に乗り移ったと言えるかもしれない。とにかく日本リーグプレーオフ７連覇を飾った直後から「優勝」の２文字しか頭になかった。

「日本の強さを見せつけたい。いやメイプルレッズの強さを今度の大会では見せる」。そうした強い意思を胸に秘めて林監督は中国に乗り込んだ。プレーオフ後も練習を欠かさなかったことからも、この大会にかける執念が見て取れた。

写真提供：スポーツイベント社

ターゲットは言うまでもなく林監督の母国・韓国の代表である「暁明」打倒。暁明は昨年のアテネオリンピック後に創部された新興チームながら、アテネオリンピック代表４人など代表経験者６人を抱える強豪。

相手が強いほど燃えるのが林監督。首を痛め、痛み止め注射を打ちながら、３試合ともコートに立った。

「先輩が後輩に負けるわけにはいかない。意地を見せつける」

チームの先頭に立って熱く燃えた。

もう一つメイプルレッズには味方があった。韓国トリオのそろい踏みである。日本では見られないトリオのプレー。コートを自在に操った。

林監督が「どこもそれほど力の差はない」と振り返ったように、４チームの戦力は接近していた。それを無敗で乗り切ったのは、日本リーグ７連覇でも見られるようなメイプルレッズの勝負にかけるしたたかさと集中力。そしてトリオの「ここ一番」での確実な決定力だろう。

その真骨頂の戦いが北部（中国）を下した後の第２戦、暁明戦だ。

この一戦を失えば、目標の優勝は遠のいてしまう。それだけにスローオフから全員の表情はまさに「獲物を狙うトラ」だった。前後半とも中盤の攻防が勝負を決めた。まず前半 19 分。２点のビハインドながら林―呉の韓国代表コンビが派手なスカイプレーを爆発させた。さらに杉本、青戸、そして呉が一気に５連続ゴール。

後半 15 分で２点差に詰め寄られた場面で、青戸のポストプレーをきっかけに金のロングなどでまた６連続得点。韓国の戦意を喪失させる猛攻撃。終盤にはメンバーを総入れ替えする余裕さえのぞかせて 10 点差の完勝だった。

「私たちのプレーを相手は分かっている。でも集中力が上回った。前半の５点差で勝てると思った」

金と並んでこの試合最多の９得点を挙げた呉は、会心の笑みで快勝を喜んだ。

写真提供：スポーツイベント社

前回は韓国の２チームにいずれも大差で涙を飲んだ。その雪辱を果たしたい夢も実った。サイドのスペシャリスト大前も「とにかく念願の韓国に勝ってうれしい」。日本の女王から東アジアの女王という新たな勲章を手に入れたメイプルレッズ。「おごる」どころか、逆に「国内で負けるわけにはいかない」と自らにプレッシャーをかけて05年シーズンへ臨もうと気持ちを切り替えている。ここがメイプルレッズの「真の強さ」と言っていいのだろう。

男子：大崎、収穫の２位

「29回目の日本リーグ初優勝という勢いで勝てた」。宮崎の８得点などで後半一気に突き放し、初戦の江蘇を下して好スタートを切った大崎電気の矢内GMは、興奮気味に言葉が弾んだ。しかし、その表情が試合ごとに厳しさを増していった。

第２戦の優勝コロサ（韓国）に逆転負けしたあとの首藤監督は、悔しさを飲み込むのが精いっぱい。

「最終的に崩せない…」

最終戦に勝負をかけたが、ここも地元の北京に３点差で競り負けた。前半は互角の戦い。しかし、後半に入るとシュートの確率の悪さを露呈、しかも相手GKの好セーブに阻まれ、一時は６点差をつけられた。決めるべき時に確実に決めることや、勝負どころの戦い方をいやというほど肝に命じたことだろう。

優勝を決めたメイプルレッズの「ニッポン」大合唱の声援に、終盤は４点連取で追い上げたものの、勝利には結びつかなかった。中国の２チームと１勝２敗で並んだが、得失点差で２位は確保した。戦力的には十分戦える力はあることは実証した。

「勝利への執念が見えてこない」。そんな声も一部には聞かれたが、勝負のポイントでいかにたたみかける戦いが出来るか。また「ハンドボールは格闘技」ということをどう受け止めるか。こうした課題を克服することが、改めてはっきり浮かび上がった今回の遠征ではなかったろうか。

矢内GMは振り返って、こう総括した。

「主将の中川が負傷して出場できなかったのが、大きくのしかかった。でも、若手には今回の大会で収穫があったはずだ。もっと力をつけることはもちろんだが、さらにはここという場面でチームをリードする選手の存在を痛感した。」

ベストセブンに選ばれた豊田、ルーキー猪妻ら若手が、今後どのようにこの悔しさと経験を基盤にして、チームに新風を吹き込むか。それが日本リーグ連覇、さらには次回の大会につないでいくか、楽しみだ。

メイプルレッズの主将、青戸が言った。

「プレーオフでシーズンが終わったと思う。私たちも昨年はそうだった。大崎電気もおそらくそうしたものがあったのではなかろうか。今回、優勝できたのは昨年の苦い経験があったからだと思う。」

悔しさを喜びに変えたメイプルのしたたかさ。次は大崎電気がコンディションを整え、課題を克服し、雪辱を期す番である。全日本総合選手権の屈辱をプレーオフに生かしたように、今回の悔しさをバネにベテラン、若手が一体となって新しい大崎電気の伝統づくりへ突っ走るはずだ。

写真提供：スポーツイベント社

写真提供：スポーツイベント社

マカオ・チャイニーズタイペイが東アジア連盟に加盟

東アジア連盟は選手権開幕の4月8日、理事会を開き、新たにマカオ、チャイニーズタイペイの加盟を承認した。これで加盟国は日本、韓国、中国と合わせ5カ国となった。

この日、マカオ、チャイニーズタイペイからも会長らが中国入りして理事会で加盟を強く要請して、承認されたが、東アジアクラブ選手権参加などに関しては、まだ未知数と見るのが妥当だろう。

東アジア連盟（EAHF）は2003年4月7日、中国・北京で日本、韓国、中国の3カ国が集まって設立した。交流試合やコーチ、審判の講習会などの活動をうたっている。しかし、現状ではクラブ選手権は実施されているが、コーチ研修などの事業はなかなかレールに乗れていない。確かに加盟3カ国では事がスムーズに運ばないことも理解できる。

設立の目的の一つに、クウェートやサウジアラビアなど中東勢力への対抗策がある。過去、幾度となく審判の不公平な判定など、事あるごとに「差別」に泣かされてきたことは間違いない。

「東アジアが力をつけてアジア連盟（AHF）内での発言力を強めよう」の狙いは当然のことである。現状では「差別」は明らかだからだ。

しかし、加盟3カ国だけでは現状打破につなげることは、むずかしいと言わざるを得まい。今回、チャイニーズタイペイ、マカオ加盟で5カ国に膨らみはしたが、最大の課題は強化と財政だろう。

加盟国・地域は増やしたいが、財政基盤が整っていないところが多いこともネックになっている。戦力的にもレベルの差は明らかだ。どう全体のレベルアップを図っていくかが、中東勢力へいかに圧力をかけるかにつながってくることは明白である。

日本協会の市原副会長は「日中韓と他の国とは戦力的に開きがありすぎる。東アジアクラブ選手権にしても、現在のような試合形式での開催は難しいだろう。将来的には日中韓をシードして、その他の国で予選リーグなどをしたあと決勝リーグのような形式にするのがベストではないだろうか」と話している。

加盟国・地域の拠出金の問題もあるなど課題山積というのが直面している現状だろう。こうした難題を3カ国が結束していかに打開していくか。まだまだ不透明な面が多いのは否めない。しかし、一歩でも前進させなければ設立の意味がない。今後の活動や交流に3カ国の強力なリードが欠かせない。

大会トピックス

初の国際大会に感激

地元中国からは女性レフェリーも起用されたが、日本の福田弘、冨田拓ペアにとっては、初めての海外遠征。最初は多少の緊張感が見られたが、慣れるにつれて本来のレフェリングでゲームを巧みにコントロールした。

「昨年のペアに続いて最優秀審判に選ばれなくて…」と言うものの、堂々とした態度は好感が持たれた。

「レフェリングだけでなく、いろんな面でとってもいい勉強になった。今回、学んだことを今後に生かしたい」と収穫たっぷりの国際大会参加を喜んでいた。

豪華なサヨナラパーティー

表彰式を兼ねたサヨナラパーティーが行われた蘇州カンファレンスセンターは蘇州一の豪華さ。大ホールはシャンデリアがキラキラ輝き、中央には各国の首脳がずらりと勢ぞろいした。地元中華料理が次々と運ばれるなど至れり尽せりの歓待ぶりだった。

選手たちも戦いを終えてリラックス。日本の両チームも和

気あいあいで談笑。また、メイプルレッズの林、呉、金の3選手は韓国チームと再会を喜びあい、とくにMVPに輝いた金選手は多くの選手たちから祝福されたり、記念写真におさまったりと、うれしい引っ張りだこだった(写真上)。

デモ警戒か、人気薄か…

昨年の韓国ではTV放映もあったが、今回は報道陣も少なく、少々寂しかった。観客も地元同士の対戦には多いときで300人くらいは詰め掛けたが、日本戦などは数えられるくらいで、反日デモが懸念された雰囲気の中で、盛り上がりにはかけた(写真左下)。

初日、開幕ゲームに登場したメイプルレッズ戦は予定されていた子供たちの動員も中止され、販売済みのチケットを買い戻すなどの対応が取られた。それにしても中国のハンドボール熱は高いのか、低いのか。来年の日本開催では大観衆で大いに会場を沸かしたいものだ。

フリータイムのはずが…

メイプルレッズの選手が期待していたのが、帰国前に上海に移動してのフリータイムだった。しかし「反日デモのおそれがあるので、不測の事態に備え、集団行動をしよう」とフリータイムはむなしくキャンセル。上海動物園のコアラ見物が唯一の楽しみとなった。それでもコアラ舎では大はしゃぎ(写真右下)。カメラを向けたり、声を掛けたり? 結構楽しんだ様子。その後はホテルでゆっくりと優勝の喜びに浸ったり、激戦の疲れを癒したり思い思いの「上海の夜」を過ごした。

参加チーム及び最終順位

【参加チーム】

[男子] 日本;大崎電気、中国;BEIJING(北京)、JIANGSU(江蘇)、韓国;KOROSA

[女子] 日本;広島メイプルレッズ、中国;BEIBU(北部)、ANHUI(安徽)、韓国;暁明

【最終順位】

[男子]			[女子]		
優勝	KOROSA(韓国)	3勝	優勝	広島メイプルレッズ	3勝
2位	大崎電気	1勝2敗	2位	暁明(韓国)	2勝1敗
3位	BEIJING(中国)	1勝2敗	3位	BEIBU(中国)	1分2敗
4位	JIANGSU(中国)	1勝2敗	4位	ANHUI(中国)	1分2敗

ギョンナム・アナズヴィルカップ国際女子ハンドボール大会速報

北京へ好発進、価値ある4位

順位	国
1位	韓国(4勝)
2位	デンマーク(2勝2敗)
3位	ウクライナ(2勝2敗)
4位	日本(2勝2敗)
5位	中国(4敗)

※2位〜4位の順位は、対戦間得失点差により決定:デンマーク(+11)、ウクライナ(-1)、日本(-10)

5月27日(金)〜31日(火)まで韓国・龍仁市を会場に開催された表記大会に女子ナショナルチームが参加した。大会はアテネオリンピック・メダル獲得国全てが参加、優勝のデンマーク、準優勝韓国をはじめ3位ウクライナと中国の5チームによる熱戦が繰り広げられた。日本チームの指揮はバウワー氏が就任して間もないため、コーチの荷川取氏(北国銀行)が取った。日本は中国には快勝、アテネオリンピック3位ウクライナには競り勝ち、選手には大きな自信となる。結果は2勝2敗、得失点差で4位であったが世界の強豪相手に健闘、北京に向けての貴重な一歩となった。

最終順位は左の通り。

大会の様子、詳しい結果については次号に掲載いたします。

記者会見ルームより

〜決勝戦直後の監督・選手のコメント〜

熱戦の後で監督、選手がどんなことを話しているか考えたことはありませんか。新聞や雑誌紙面で語られる選手の言葉はどの様にして取られるのでしょうか。それは、会場内に設けられたプレス用の記者会見室でなのです。コート上でのヒーローインタビューはリップサービス、本音はここで話されます。例えば宮﨑選手（大崎電気）はドーピング検査のために飲んだビールでほろ酔い気分でしたし、自らコートに立つという極秘作戦を明かすイム監督（広島メイプルレッズ）の笑顔は最高でした。今号では、その会見の様子をダイジェストでお伝え致します。
（文責：河野滋代（機関誌編集専門委員））

男子優勝チーム 大崎電気

▶首藤監督

「豊田選手・宮﨑選手の起用について」

まず豊田選手について、練習中に打ち所が悪く、肉離れを起こしていた状態だったので、監督としては周りを考えた上で起用したつもりだった。しかし、持ち前の高い身体能力を発揮出来ず、かえって苦しめる結果になったと思っている。また、宮﨑選手については、ポイントポイントで点が取れていたのでよかったが、ベンチとしてはうまく使い切れていなかった。チームの３人のバックプレイヤーは強烈で、バランスが悪いと逆に足を引っ張り合うことになるが、今回はうまく機能したと思っている。

「試合の戦術・勝因について」

相手の韓国人の２人のプレイヤー、末松選手に対しては、いいプレーを潰して簡単に好きなプレーをさせないなど、選手に指示を徹底していた。うちは得点力のある選手も多いので、逆に空いたスペースをねらうなども作戦の一つだった。１番苦しかったところは、全日本総合の時もそうだったけれど、７ｍスローを外すたびに、嫌なイメージが残っていってしまうところ。けれども今日はチーム全体に切り換えが出来ていたので、大きいダメージにはならなかったのが勝因だろう。

▶中川キャプテン

「試合を終えて」

日本リーグや全日本総合などで、勝てそうなところで結果的には負けてしまっていたり、また自分は大崎のキャプテンだけでなく、全日本のキャプテンもやっていたので、チームのことを考える時間がとても多かった。だから今はほっとしている。今まであまり眠れなかったが、これでようやっと熟睡出来る。この間オフェンスを修正してきて、それを今日の試合では出せていたと思う。ファイナルというのはチームとして初めての経験だったので、昨日の記者会見の時には自分の気持ちを高揚させるために強がって見せていたところがあったが、それくらいここに懸けてきていた。しかしこれで燃え尽きないように、慢心することなく次を戦っていきたい。

今年は大崎はファンクラブを作って、ハンドボール界に一風吹かせようと試みた。試合に勝てたのは、ファンクラブや国体の民泊、また練習会に参加してくれた方々が応援してくれたことも大きい。

「東アジア選手権に向けて」

日本のレベルは上がってきているので、このままやっていけば問題はない。アジアに行っても、どんなところに行っても、自分たちの力がどこまで通用するのか試していきたいと思っている。

首藤監督

中川キャプテン

宮﨑選手

▶宮﨑選手

「試合を振り返って」

今回の優勝は初めてだったのでとても嬉しかった。大同の応援もすごかったけれど、大崎ファンの声援がとても伝わってきた。今日の勝因については、自分と中川選手はDFが厚いのははじめから分かっていたから、前半はパスをまわしていった。パスと言っても、引きつけてパスといった基本的なところをしっかり行ったつもり。大同のDFも固いのだけれど、少しずつ少しずつズレが生まれていった。また今日は外国人の審判だったということもあり、ちゃんと前に行く姿勢を見せていけば、チャージではなく7mスローを取ってくれる。これは自分もスペインにいたので、試合中特に感じたこと。

最後に、自分がスペインから戻ってきたのは、日本リーグで優勝するため。自分のプレーはスペインでは全く通用しなかったが、日本ではある程度通じている。しかし、これではいけないと思っている。日本は、レベルを上げていくためにも、世界で優勝することを目指していかなくてはならない。

男子準優勝チーム 大同特殊鋼

▶冨本監督

「試合を振り返って」

前半については10－10で終え、いい時間とも悪い時間ともよく戦えていた。後半については退場者が多く出たことが敗因にもなろうが、これはベンチの采配ミスでもある。不正入場がそれであるが、うっかり退場している時間を見落としてしまい、コートに6人入っていたという状況を作ってしまった。これは完全に私の采配ミス。ここを境に一気に3点差をつけられてしまったのが残念。けれどもレフェリーの特長などもよく把握していたつもりで、例えばエリア内で防御しないなど、徹底していたが、結果的にはやられてしまい、ペナルティースローと退場からゲームのプランが狂ってきた。25点以内に失点を抑えることと、25点以上得点することを目標に戦ってきたが、わずかながら達成することが出来なかった。

大崎電気については、リーグ中と変わったところというのは特になかった。総合力での差があったことが、敗因だと思っている。また宮﨑の加入は大きく勝利に関係しているが、それよりもチーム全体としてやるべきことが徹底されていたところのほうが大きい。

来シーズンに向けては、もう一度チームを見つめ直すということも大切だと思っているが、今のところここに懸けていたので、来シーズンへの抱負は見あたらない。

▶峯村キャプテン

「試合を振り返って」

試合の最後3点差がどうしても追いつかなくて、やはりラスト10分間の戦いが勝負所だったのだと思う。そこで退場者が出たことが痛かった。また、監督もおっしゃっていたが、総合力で負けたと思っている。

インタビューを受ける高木選手

女子優勝チーム 広島メイプルレッズ

イム監督（左）と大前選手（右）

▶林五卿監督

「試合を振り返って」

苦しかったけれど、今は最高の気持ちでいる。前半自分たちのペースで試合を運べたが、後半ダブルマンツーで追いつかれた。けれども最後まで集中力が切れなかったし、練習でやってきたことがコートできちんと出せたのが大きな勝因だと思う。試合の前に、オムロンが前日のソニー戦に１点差で勝ったのは、ただの運ではない。けれども今日は絶対に勝たせてはいけないと選手に話をしていた。後半の始め、自分が７ｍスローを外し、呉選手がミスをし、二つのミスが続いてしまった。その点が入っていれば、後半楽に勝てたのではないかと思っているが、後半の最後まで、１点差でも気持ちの上では絶対に負けなかったのがよかった。

けれどもここに至るまでに、様々な苦労があった。メイプルには左利きの選手がいないので、アルバイト料を払って大型の男子大学生を雇い、オムロン戦に向かった。また180㎝もあるもキーパーも借りて練習をした、その成果が試合には出たと思う。練習相手になってくれた男子学生には感謝している。

「監督自身が試合に出場することは初めから考えていたことなのですか？」

前回オムロンとの試合で負けたところから、自分が出場することは考えていた。プレーオフの２週間前から練習を始めたが、眠れない日が続いた。この負けた試合の後は、選手も休みなく練習を続けていた状態だったから、精神的にもとても苦しかった。けれども、チームのフェイント力が足りないので、オムロンの長身の許選手が出てくることを予測して、そこを自分が補う。呉選手がマンツーマンされることはわかっていたので、フォローするために自分が入ろうと思った。またDFでは日本人選手に合わせるために入ろうと思った。しかし私が出ることは極秘中の極秘。選手には家族にも友達にも話してはいけないと言った。メールでも禁止。それがわかってしまったらオムロンはその対策を必ず打ってくる。

「試合中１点差で負けている時、どういう作戦を立てたか？」

まず、集中するよう選手に声を掛けた。とにかくミスをしないように声を掛け続けた。たとえミスが出たとしても、集中を切らさなかったのは、気持ちの上で勝てると思っていたから。

「来シーズンの監督の出場は？」

一応登録はしておくが、あくまで選手が怪我をしたときのため。プレイヤーとしては出場するつもりはない。けれども他チームにずっと分析されてきているので、作戦の一つとして自分が試合に出ることは考えている。その程度だが、自分がベンチにいて指示を出しているだけ、というのは寂しいことだし、チームにとっても自分にとっても、コートの中、選手の中でプレーをすることの方がいいと思っている。

▶大前選手

「イム監督がいることでチームはどういう影響がありますか？」

いてくれるだけで全然違う。カバーしてくれるという気持ちがとても心強い。また自分たちがうまくプレー出来ず、いらいらした時も、いるだけ安心できる。

女子準優勝チーム オムロン

▶西窪監督

「試合を振り返って敗因はどこにあると思いますか」

まず、試合前に冨田がコートに立てるかどうかが分からなかったことが大きい。プレーオフ前の怪我で、臀部に出血があり、もう一度そこを痛めた場合や途中プレーが出来なくなる場合のことを考えると、思い切って起用することが出来ずにいた。また、相手チーム監督のイムさんが出場してきたことも、敗因に関係している。イムはこの試合６点を決めている。ここという時の勝負感も持ち合わせているし、何より様々な修羅場をくぐり抜けてきている選手なだけに、総合的に見

れば、イムの出場はやはり大きな敗因の理由となろう。試合の流れに関しては、前半やろうとすることが悉く阻止された。例えばポストプレーなどがその一つに挙げられる。自分たちは後半の半ば勝ち越したのだけれども、選手達には後半、体力的にも落ちるという話はしていたが、２点３点と離されてしまい、結局前半部分の点差を払拭出来なかった。後半、メンバーを代えることで対処し、追いついたところでミスが出た。立て直せたものの、結局最後の１点差をつめることは出来なかった。

今年は、イムの、メイプルの背中を追い、捕らえてきてい

第29回日本ハンドボールリーグ「ANA CUP」プレーオフより

左から西窪監督、佐久川キャプテン、冨田選手

第29回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了　3月6日

男子1部

順位		大崎電気	大同	湧永製薬	ホンダ	車体	アラコ	ホン熊	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大崎電気	＼	30 26 26 ○○○ 20 24 25	25 19 20 ○●● 24 26 31	26 30 33 △○○ 26 22 27	29 28 30 ○○○ 19 27 21	32 28 31 ○○○ 29 26 23	28 29 33 ○●○ 26 34 24	18	14	1	3	503	454	49	29
2.	大同特殊鋼	20 24 25 ●●● 30 26 26	＼	26 18 27 ○△● 20 18 28	27 21 29 ○○○ 26 17 18	37 27 23 ○●○ 21 30 22	28 36 26 △○○ 28 28 24	27 31 31 ○○○ 23 27 25	18	11	2	5	483	437	46	24
3.	湧永製薬	24 26 31 ●○○ 25 19 20	20 18 28 ●△○ 26 18 27	＼	15 25 17 ●○△ 19 21 17	23 21 22 △●○ 23 25 21	29 23 25 ○●○ 20 24 17	28 27 20 ●○● 30 22 23	18	8	3	7	422	397	25	19
4.	ホンダ	26 22 27 △●● 26 30 33	26 17 18 ●●● 27 21 29	19 21 17 ○●△ 15 25 17	＼	26 23 30 ○△○ 19 23 24	27 25 27 ●○○ 29 18 26	23 21 32 ○●○ 18 25 31	18	7	3	8	427	436	-9	17
5.	トヨタ車体	19 27 21 ●●● 29 28 30	21 30 22 ●○● 37 27 23	23 25 21 △○● 23 21 22	19 23 24 ●△● 26 23 30	＼	29 24 27 ○○● 21 20 31	29 25 26 ○●○ 25 28 20	18	6	2	10	435	464	-29	14
6.	アラコ九州	29 26 23 ●●● 32 28 31	28 28 24 △●● 28 36 26	20 24 17 ●○● 29 23 25	29 18 26 ○●● 27 25 27	21 20 31 ●●○ 29 24 27	＼	22 29 33 ○○○ 21 28 28	18	6	1	11	448	494	-46	13
7.	ホンダ熊本	26 34 24 ●○● 28 29 33	23 27 25 ●●● 27 31 31	30 22 23 ○●○ 28 27 20	18 25 31 ●○● 23 21 32	25 28 20 ●○● 29 25 26	21 28 28 ●●● 22 29 33	＼	18	5	0	13	458	494	-36	10

女子

順位		メイプル	オムロン	ソニー	北國銀行	HC名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	広島メイプルレッズ	＼	28 21 20 ○○● 23 17 26	33 34 42 ●○○ 35 24 31	30 30 21 ○○○ 22 20 20	35 29 30 ○○○ 29 23 24	12	10	0	2	353	294	59	20
2.	オムロン	23 17 26 ●●○ 28 21 20	＼	30 30 35 ○○○ 22 24 21	29 19 24 ○○○ 19 17 19	31 26 35 ○○○ 16 22 15	12	10	0	2	325	244	81	20
3.	ソニーセミコンダクタ九州	35 24 31 ○●● 33 34 42	22 24 21 ●●● 30 30 35	＼	20 25 32 ●○○ 25 23 22	25 31 35 ○○○ 23 21 25	12	6	0	6	325	343	-18	12
4.	北國銀行	22 20 20 ●●● 30 30 21	19 17 19 ●●● 29 19 24	25 23 22 ○●● 20 25 32	＼	21 25 19 ○○△ 20 16 19	12	3	1	8	252	285	-33	7
5.	HC名古屋	29 23 24 ●●● 35 29 30	16 22 15 ●●● 31 26 35	23 21 25 ●●● 25 31 35	20 16 19 ●●△ 21 25 19	＼	12	0	1	11	253	342	-89	1

男子2部

順位		北陸電力	HC東京	トヨ自	豊田合成	大阪ガス	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北陸電力	＼	29 24 25 ○○○ 26 23 21	33 28 31 ○○○ 17 13 12	36 35 31 ○○○ 23 18 19	33 29 35 ○○○ 19 17 16	12	12	0	0	369	224	145	24
2.	HC東京	26 23 21 ●●● 29 24 25	＼	26 20 31 ○○○ 10 15 24	37 25 29 ○○○ 13 22 21	39 32 23 ○○○ 13 17 19	12	9	0	3	332	232	100	18
3.	トヨタ自動車	17 13 12 ●●● 33 28 31	10 15 24 ●●● 26 20 31	＼	29 38 27 ○○△ 20 24 27	29 26 24 ○○○ 23 20 16	12	5	1	6	264	299	-35	11
4.	豊田合成	23 18 19 ●●● 36 35 31	13 22 21 ●●● 37 25 29	20 24 27 ●●△ 29 38 27	＼	30 25 29 ○●○ 26 30 20	12	2	1	9	271	363	-92	5
5.	大阪ガス	19 17 16 ●●● 33 29 35	13 17 19 ●●● 39 32 23	23 20 16 ●●● 29 26 24	26 30 20 ●○● 30 25 29	＼	12	1	0	11	236	354	-118	2

たのだが、結局越えることは出来なかった。メイプルの７連覇というのは、それ以上に日本の女子実業団のレベルが上がっていないと言わざるを得ないところがあるだろう。やはり勝たないといけない。

ここでユニフォームを脱ぐ者もいるが、若手選手が徐々に伸びてきている。負けたけれども、チームは一つ一つ階段を上ってきているし、今期やってきたことは間違ってはいなかった。また、来期はいい選手も入るので、今年のオムロンに足りなかったところを、新たに補っていきたいと思っている。

▶佐久川キャプテン

「試合を振り返って」

やはり監督もおっしゃる通り、前半の６点差が敗因の大きな理由だと思う。また、速攻などでも随分やられてしまい、後半追いついても遅かった。そして退場などが出てしまい、大事な部分ではもったいなかった。残念な結果になってしまった。

入れ替え戦：ホンダ熊本が１部残留

[男子入れ替え戦]

ホンダ熊本 28 [12-10, 9-11 / 4-1, 3-4] 26 **北陸電力**

１部残留を守りたいホンダ熊本と、３回目の１部へのチャレンジとなる北陸電力の入替戦がスタート。北電２番髙橋が切れのいいサイドシュートで先制するも、ホンダ熊本は 11 番佐伯の速攻から４連取で試合の主導権を取りにいく。しかし北電もすかさず応戦、一進一退の攻防が続いたが、前半はホンダ熊本が２点のリードで折り返す。

後半に入ると北電の巻き返しが始まる。６番前田のミドルシュートを皮切りに、５連続得点により同点、ついには逆転し最大２点リードまでいったが、ホンダ熊本は GK 藤田の好セーブにより追加点を許さず、落ち着きを取り戻し反撃するも同点に終わり、延長戦に入った。

延長に入っても両チームの激しい戦いが繰り広げられ、延長後半の残り１分までもつれたが、最後はホンダ熊本が逃げ切り日本リーグ１部残留を決めた。

個人表彰

<男子１部>

賞		氏名	所属	記録	
最優秀監督賞		首藤　信一	(大崎電気)		初
最高殊勲選手賞		宮﨑　大輔	(大崎電気)		初
殊勲選手賞		白　元喆	(大同特殊鋼)		初
得点王		呉　相民	(アラコ九州)	135 点	２回目
フィールド得点賞		譚　崇聖	(ホンダ熊本)	129 点	初
シュート率賞		松林　克明	(大同特殊鋼)	0.797	３回目
７mスロー得点賞		呉　相民	(アラコ九州)	41 点	２回目
７mスロー阻止賞		藤田　功一	(ホンダ熊本)	0.350	初
最優秀選手賞		宮﨑　大輔	(大崎電気)		初
最優秀新人賞		宮﨑　大輔	(大崎電気)		
ベストセブン	GK	坪根　敏宏	(湧永製薬)		５回目
	CP	下川　真良	(湧永製薬)		４回目
	〃	山口　修	(湧永製薬)		４回目
	〃	豊田　賢治	(大崎電気)		初
	〃	宮﨑　大輔	(大崎電気)		初
	〃	金　性憲	(大同特殊鋼)		２回目
	〃	譚　崇聖	(ホンダ熊本)		初
ベストディフェンダー賞		羽賀　太一	(ホンダ)		３回目
フェアプレー賞		湧永製薬　98 点／18 試合 (5.4 点／試合)			

<女子１部>

賞		氏名	所属	記録	
最優秀監督賞		林　五卿	(広島メイプルレッズ)		８回目
最高殊勲選手賞		大前　典子	(広島メイプルレッズ)		２回目
殊勲選手賞		佐久川ひとみ	(オムロン)		初
得点王		金　鎮順	(広島メイプルレッズ)	105 点	初
フィールド得点賞		郭　惠静	(ソニーセミコンダクタ九州)	68 点	２回目
シュート率賞		佐久川ひとみ	(オムロン)	0.677	初
７mスロー得点賞		冨田　有美	(オムロン)	43 点	初
７mスロー阻止賞		田代ひろみ	(北國銀行)	0.429	初
最優秀選手賞		金　鎮順	(広島メイプルレッズ)		初
最優秀新人賞		岡田　奈穂	(HC名古屋)		
ベストセブン	GK	浅井友可里	(広島メイプルレッズ)		初
	CP	大前　典子	(広島メイプルレッズ)		初
	〃	佐久川ひとみ	(オムロン)		４回目
	〃	金　鎮順	(広島メイプルレッズ)		初
	〃	郭　惠静	(ソニーセミコンダクタ九州)		初
	〃	田中　美音子	(ソニーセミコンダクタ九州)		８回目
	〃	坂元　智子	(オムロン)		初
ベストディフェンダー賞		大石　真代	(オムロン)		初
フェアプレー賞		広島メイプルレッズ　65 点／12 試合 (5.4 点／試合)			

<男子２部>

賞		氏名	所属	記録	
最多得点賞		杉山　卓也	(北陸電力)	81 点	初
フィールド得点賞		佐藤　豪洋	(豊田合成)	58 点	２回目
		原　貴之	(豊田合成)	58 点	初
シュート率賞		髙橋　準	(北陸電力)	0.695	２回目
７mスロー得点賞		杉山　卓也	(北陸電力)	32 点	初
７mスロー阻止賞		山本　敏	(トヨタ自動車)	0.333	２回目
最優秀新人賞		落合　信也	(北陸電力)		
敢闘賞	GK	有江　啓	(北陸電力)		初
	CP	杉山　卓也	(北陸電力)		２回目
	〃	桜井　歩	(北陸電力)		初
	〃	落合　信也	(北陸電力)		初
	〃	佐藤　豪洋	(豊田合成)		２回目
	〃	原　貴之	(豊田合成)		初
	〃	倉田　正洋	(トヨタ自動車)		初
ベストディフェンダー賞		神田　友和	(北陸電力)		初
フェアプレー賞		北陸電力　61 点／12 試合 (5.1 点／試合)			

<審判表彰>

最優秀レフェリー賞　家永昌樹（大阪府）・福島亮一（熊本県）

最優秀新人レフェリー賞　該当なし

「連係プレー」に注目

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

昨年から準備が進んでいた球技の国内最高峰リーグの大同団結がいよいよ動き出した。ハンドボール日本リーグ（男女）をはじめ女子サッカーＬリーグ、バレーボールＶリーグ（男女）、バスケットボール男子スーパーリーグと女子Ｗリーグ、ラグビーのトップリーグ（男子）、アイスホッケーはアジアリーグ（男子）、ソフトボールとホッケーの各日本リーグ（男女）の８競技、９団体が集う「日本トップリーグ連携機構」だ。

５月24日に設立総会を開いたが、会長に日本体協会長になったばかりの森喜朗前首相が就任したことからもこのところ低迷している球技へのテコ入れの強い思いが込められていると言っていいだろう。

各リーグの枠を超えて活性化を図ろうというもので、異なる競技の連携という第一歩を踏み出したことは評価できるだろう。

異競技交流団体としては、広島にＮＰＯ法人「広島トップススポーツクラブネットワーク」（略称トップス広島）がある。今春、実業団陸上界の強豪、中国電力が加わって６競技、７団体が加盟している。いわば国内では競技団体連係プレーの「はしり」で、地元広島よりも、各メディアや競技団体からすごい興味というか、注目を集めた。

各種イベントへの参加、スポーツ指導・普及活動などを行っているが、それぞれのシーズンが異なることや屋内と屋外競技の違い、またそれぞれの温度差などもあって、どこまで連携して目的が達成できているかといえば「なかなか難しいな」といったところが現状ではないかと思う。

地域貢献のために「トップス広島」独自の本格的な事業展開をどうするか。国内第１号として今後、その歩みが大いに注目されるところであろう。

一方、プロ野球界では史上初の試みであるセ、パ両リーグの交流戦が行われた。その傍らでは既存とは別の独立リーグ「四国アイランドリーグ」が誕生した。四国４県に一つずつチームを置いているが、プロに夢を託す選手を地域密着で育てることを最大の目標としているリーグだ。

なかでも注目を集めるのが徳島県だ。アイランドリーグの徳島インディゴソックスと今シーズンプロサッカーＪ２に加盟した徳島ヴォルディスの２つのプロチーム誕生。およそ80万人の徳島県でプロ野球とサッカーが共存できるのか。

５月７日、この両者が鳴門総合運動公園の野球場、陸上競技場で試合をした。開始時間を変えたためサッカー観戦したファンが続いて野球観戦をした。野球はスポーツウエア着用者は入場無料だった。

互いのファンをどのように掘り起こしていくかが課題だが、地域密着をうたう両者と地域がどう活用していくか、接点をどのように求めていくか、楽しみでもあるし、これから複数のスポーツが誕生する構想のある地方都市にとっても目が離せないだろう。

これまでの２つのことと今回の日本トップリーグ機構とは、共通点は多い。トップリーグ構想は国内での人気低迷、国際大会での成績不振に負うところが多い。起爆剤としての効果を期待しているところもある。

複数の競技を一つのパッケージとして売り込み、テレビ中継などのアイデアもあるようだが簡単にはいくまい。まずは地域をどのように取り込み、人気回復に努めるかではないだろうか。ハンドボールが他の競技とどう手を取り合って活性化につなぐか注目したい。

俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE
THH513 ¥12,600(本体¥12,000)
カラー：0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト
サイズ：23.0～29.0・30.0cm

0490

5001

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。
http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

2004 世界ビーチハンドボール選手権大会（エジプト）報告

多くの皆様の支えで無事参加することができました

ビーチハンドボール日本女子代表チーム団長兼任監督　原田　悟

初めに、この度の2004世界ビーチハンドボール選手権大会参加にあたり、物品提供、支援金、練習パートナー等、心温まる声援・支援を各方面の方々より頂戴致し、また国内練習・強化合宿や出発に向けての準備中は勿論の事、エジプトに入ってからは皆様からの暖かい声援が支えとなり無事大会参加を終えることが出来ました。（財）日本ハンドボール協会の兼子事務局長、平賀氏、ビーチ委員長本間氏を初め、他スタッフの方々、支援者の皆様、そして関係者の皆様の御協力なしにはこの大会参加を成し得ることは出来ませんでした。2004世界ビーチハンドボール選手権大会日本女子チームを応援下さった皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。

今大会の団長でビーチ委員長の本間誠章氏が、体調不良の為、参加を断念せざるをえない状況になり、日本ハンドボール協会の大西氏より急遽、私に団長兼任監督との依嘱があり、ビーチハンドボールの初海外進出に不安が募る中での承諾を致しました。

さて、ビーチハンドボールの歴史は浅く、日本でも始まって10年足らずの中、2004年7月に行われたアジアビーチハンドボール選手権大会（千葉県富浦町）で香港を破り優勝、世界ビーチハンドボール選手権大会（エジプト・エルグーナ）の出場権キップを得ました。しかしながら（財）日本ハンドボール協会の財政が逼迫しているため、大会参加費、遠征費、強化練習等の費用は自己負担と支援金で運営せざる得ない環境であったため、諸条件の中での選手選考・スタッフの推薦となったのも事実です。浜辺のレクリエーションとして誕生したビーチハンドボールですが、この大会に参加して、各国の代表チームは身体的・技術的にも非常にレベルが高く、ビーチハンドボールも競技指向が強いボールゲームになってきたことを痛感しました。残念ながら今大会の成績は8チーム中7位という結果に終わりましたがこの大会で得られた経験は我々スタッフ及び、選手全員が多くの財産を持って帰国し・今後のハンドボール界の発展とビーチハンドボールの普及活動に少しでもつながれれば幸いだと思います。また、今年おこなわれますワールドゲームス（ドイツ）にもビーチハンドボール競技があり、ビーチハンドボール委員会では準備を進め、調整を行っております。

2004 世界ビーチハンドボール選手権大会結果

会期：2004年11月27日（土）～30日（火）／会場：エジプト・エルグーナ

◆日本の結果：7位／8チーム

日本 2（9－6, 13－4）0 香港
日本 0（8－14, 9－11）2 ブラジル
日本 0（13－21, 8－15）2 ハンガリー
日本 0（16－7, 12－6）2 イタリア
日本 0（14－9, 12－4）2 ロシア
日本 0（11－20, 9－15）2 クロアチア
日本 0（7－17, 10－20）2 トルコ

◆最終順位

順位	チーム	成績
優勝	ロシア	6勝1敗
2位	トルコ	6勝1敗
3位	イタリア	6勝1敗
4位	クロアチア	3勝4敗
5位	ハンガリー	3勝4敗
6位	ブラジル	3勝4敗
7位	日本	1勝6敗
8位	中国香港	7敗

大興奮の世界大会 ～ビーチハンドの盛り上がりを願って～

代表選手　藤平 晃子

エルグーナでは、日本がビーチハンドボールの中心から遠く離れているということを痛感しました。日本では見たことのないピルエット・シュート※や、砂の上なのにスカイをバンバンやるヨーロッパの選手を見て度肝を抜かれました。その傍らで、秋田の世界選手権しか世界との交流がなく、ビーチの国際試合経験者は一人、という私たちは途方に暮れました。初戦の香港チーム以外には、必死で1点取っても相手にはクルクル回られて2点を取られるという展開で全く歯が立ちません。ボランティアのエジプト人学生には「日本はなぜ回らないんだ！」と責められる始末。もちろん、ピルエット・シュートの練習はしましたが、DFがいない状態でも難しく、試合で成功したのは、最後の1、2戦くらいでした。成功させた山本、村田選手はすごいと思います。しかし、技術的なことに加え、他国チームとの交流や観客の大興奮（地元エジプト男子の優勝のおかげ？）などを体験できたことは、何ものにも変えがたい経験でした。ご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。これから、少しでもビーチに興味を持ってくれる人が増えることを願います。※ピルエット・シュート：フィギュアスケートのジャンプのように空中で1回転してから打つシュート。

全国高等学校選抜大会：茨城から世界へ

茨城県ハンドボール協会会長　会田 真一（守谷市長）

平成 14 年度全国高等学校総合体育大会に続いて全国高等学校ハンドボール選抜大会を守谷市・水海道市・坂東市（旧岩井市）の同じ会場で開催出来ましたことは、誠に光栄に存じております。交通の便が悪いところであるにもかかわらず、各ブロックより選ばれた全国の精鋭男女 80 チームの参加により盛大な大会になりました。（財）日本ハンドボール協会をはじめ、（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部・県協会・県高体連関係者の皆様による協力と大会運営に心から感謝申し上げます。併せて、連日、地元チームの活躍と素晴らしいプレーの連続で大観衆の応援合戦も見事であり、試合内容も高校生のレベルの高さに感激いたしました。

本年８月には千葉インターハイも控えており、参加した監督・選手の皆さんには、益々ご活躍されますことを期待しております。

守谷市とハンドボール

守谷市ハンドボール発展の経緯は、1985 年故田中勲氏（元教育委員長）の「守谷クラブ」に結成に始まります。当初はミニバスケットボールを中心としたスポーツ少年団でスタートし、1988 年関東大会で優勝。翌年関東大会で男女優勝、その後男子は関東大会では 11 回の優勝、1998 年・2002 年には全国大会で優勝し、これらの選手がけやき台中学校を中心に御所ケ丘中・愛宕中で活躍しています。けやき台中は 1991 年の創部後、関東大会で４回優勝、全国大会２回３位の成績を収めており、2001 年にはけやき台中の選手を中心とした茨城選抜チームが JOC 全国大会で優勝しております。さらには高校（伊奈高）に進学し、全国大会で５回も優勝するなど輝かしい成績を収め、日本代表選手も生まれております。

後列左より大川洋司全国高体連委員長、大村久茨城県協会理事長、住谷稔県協会副会長、鈴木均茨城県協会副会長、前列左より青柳正美茨城県教育委員会・保健体育課参事兼課長、柳田昌秀（財）茨城県体育協会専務理事、会田真一茨城県協会会長、大西武三日本協会専務理事、平澤憲次茨城県高体連ハンドボール専門部部長

チュニジア世界選手権大会には田中将（守谷ク→愛宕中→伊奈高→日体大→ホンダ熊本→ HC 東京）、U23：浦和克行（大崎電気）、U19：地引貴志（日体大）・久保宮大（大同工大）、ユース：太田純二（東海大）、アジア Jr. 選手権大会（インド）：染谷雄輝・小川雄也（日体大）、U15：塚本博樹（伊奈高）・大山天靖（藤代紫水）、その他 NTS センタートレーニング参加選手などを輩出しています。守谷クラブ→けやき台中→伊奈高→世界で活躍するが何人もおりますのは、この守谷市のハンドボール環境が素晴らしいものと思っております。

大会から感じたこと

最近は観衆も多くなり、ルールについても精通したファンも多く、審判員の技量に対しての要求も高まってきているように感じられます。また、選抜大会の時期は全国高体連・学校関係者は学年末の多忙な時であり、たとえ時期を前後にずらしても大会運営が困難かと存じます。役員や補助員の皆さんには、少人数のなかで大変ご苦労をお掛けしたことと思います。

大会が成功裡に無事終了できましたことは、皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

高校生、ハンドボール界へのメッセージ

最近の高校生は身長は比較的大きくなっていますが、先のチュニジア世界選手権大会を観戦し、世界各国の選手を思い浮かべたとき筋力を高校生時代にアップさせることを指導して欲しいと思います。また、外国選手との試合がたくさん出来るような機会を与えることが、競技力の向上につながることと思われます。

女子優勝チーム
写真提供：スポーツイベント社

男子優勝チームのコメント

「感　謝」

興南高校ハンドボール部監督　黒島 宣昭

今大会の目標は、男子での「高校選抜大会史上初の三連覇」でありました。昨年のメンバーが多数残った今年のチーム、この一年を振り返れば、大きな喜びと大きな屈辱を味わってきました。この経験があったからこそ前回大会よりも、精神面・技術面においてとても大きな成長を感じられました。試合内容では多少ミスもありましたが比較的に安定した試合運びができたものと思います。

二回戦からの出場でありましたので、私自身、日に日にプレッシャーが強くなるのを感じました。しかし、選手達は一戦一戦に集中していて、練習でやってきたことをしっかりと試合でこなしてくれました。特に、準決勝の浦和学院戦では昨年の国体で悔しい敗戦のリベンジに燃えていました。ゴールキーパー内田君を中心にデッフェンスが良好で、オフェンスでは、両エースの棚原君、東長濱君、キャプテンの石川君が絶好調でした。素晴らしいゲーム展開ができたと思っています。この勢いで、決勝も乗り切れたかと思っています。

さて、追われる立場になりましたが、夏のインターハイまでは、とても厳しい戦いになると思います。昨年のことがないように、県予選から気を引き締めて、今大会の課題を克服しチャレンジャー精神でインターハイ出場を勝ち取りたいと思っています。

最後になりますが、ここに至るまでに多くの方々のご指導ご鞭撻をいただきました。特に、小学校、中学校の指導者が、手塩に掛けて育てられた素晴らしい選手達に、めぐり逢えたことに感謝しています。本校ハンド部の父母会長でもあり、本校ハンド部OB副会長でもあります東長濱さんには、色々な側面からバックアップしてもらい感謝しています。また、学校関係者及び、県協会、さらに父母会やOB会の力強い支援に対しても感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、この「感謝の気持ち」を忘れずにこれからも日々努力して「大きな夢」を追いかけて、チャレンジしたいと思っています。本当にありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

山田永子のノルウェー研修日記③

ノルウェーのコーチングライセンスについて

4月の中旬に2004年～2005年のシーズンが終了しました。早いものでノルウェーに渡って9ヶ月間が経ちました。過度に緊張していた8、9月、少し慣れ始めた頃は寒さの厳しい冬、〈見て学ぶ、聞く、感じる、そして自ら実践する〉を繰り返し、シーズンの終盤は怒涛のように時間が流れていくのを感じました。

昨シーズンはジュニアと社会人チームの指導をしていましたが、今シーズンからはトップチームのサブコーチをメインに活動することになりました。トップチームはノルウェーのトップリーグに昇格し、これからは厳しい戦いになると思いますが、研修先のBSKのスタッフは「永子を活用するぞ!!」と任せてくれるので開き直って頑張りたいと思っています。

又、私はかねてから受講したかった指導者講習会をシーズン終盤から受講しました。ノルウェーに来て間もないころに一度講習会を受講したのですが、さっぱり解らないノルウェー語の講習は、雰囲気だけは何となく解るものの、十分に理解していないことがとてももったいないと感じ、語学を勉強してから出直すことを決めていました。

ノルウェーの指導者のライセンスは図のように1～5レベルまであり、レベル1は4時間（講義&実技）を5テーマ、レベル2は15テーマ、レベル3は20テーマをそれぞれ受講します。レベル4は週末に合宿があり、合計680時間を受講します。そして最終的には試験があり合格した後、ライセンス発行になります。レベル5はスウェーデン、デンマーク、ノルウェーが共同で開催、取得すればEHFマスターのライセンスを申請することができます。取得のためには10年以上のコーチ経験が必要で、また他にも様々な基準をクリアしなければならないので、これまでに指導経験があっても2年以上かかると言われています。

子供のハンドボール

運動指導者
4テーマ×4時間
（地域のハンドボール協会が担当）

10代―シニアのハンドボール

- レベル1　5テーマ×4時間 → レベル2　15テーマ×4時間
- レベル2 → レベル3　20テーマ×4時間
- レベル4　週末合宿　678時間（実技を含む） → レベル3
- レベル4 → レベル5　選択課題　EHF、マスターコーチ

（レベル1.2.3は地域のハンドボール協会が担当、レベル4.5は中央のハンドボール協会が担当）

講義の内容は表にまとめました。レベル1～3は地域のハンドボール協会が、それに対してレベル4、5は中央のハンドボール協会が担当しています。レベル1～3の講義において、受講者は取得しているライセンスのレベルに関わらず自由に選択し受講できます。そのほかにも若手リーダー指導者研修や、ナショナルスタッフによる速攻、ディフェンスの指導といったテーマ別の講習会も各地で行なわれています。

講習会では指導方法ももちろんですが、コーチ同士のつながりを大切に、情報交換を活発にしようと話しています。これからも積極的に参加し、興味深いものを日本に紹介したいと思います。

（写真中央がフルーダコーチ、右はマネージャー、左が山田です。）

子供のハンドボール
運動指導者講習内容
・ボールテクニック
・コーディネーショントレーニング（リズム、バランス、室内オリエンテーリング）
・子供向けのハンドボール指導全般
・子供向けの試合

10代―シニアのハンドボール
レベル1
・ボールテクニック
・体遊び
・投げの練習
・グループ練習（少人数での練習から6人へ）
・基礎的なハンドボールテクニック
レベル2
・オフェンステクニック
・ディフェンステクニック
・GKテクニック
・体力トレーニング
・指導の方針と計画
・週間トレーニング計画
・ゲーム中の現象に関する討論
・指導テクニック（トレーニング効果を高めるための方法について）
・フェイントとドリブルテクニック
・シュートテクニック
・トレーニング中におけるゲームルールの学習
・コーチの役割（討論会、コーチの役割は友達かガイドかインストラクターか模範か）
・コーチABC（NHFが作成したCDの利用の仕方）
・体力・メンタルトレーニング（モチベーションを高めるバリエーション豊富なトレーニング）
・怪我防止のトレーニング
レベル3
・オフェンス戦術
・3：2：1ディフェンス戦術
・積極的6：0ディフェンス戦術
・年間トレーニング計画
・各ポジションにおけるシュートバリエーション
・ハンドボール選手のウエイトトレーニング
・速攻戦術
・オフェンス戦術（ポジションチェンジプレイ）
・オフェンス戦術（クロスプレイ）
・オフェンス戦術（Wポストへの移行プレイ）
・体力・メンタルトレーニング（持久力）
・戦術トレーニング（コンセプトの紹介と実践）
・6対6のトレーニング方法
・個人の戦術
・ゲーム中におけるルールの学習、実践
・チームマネージメント
・ゲーム分析
・メンタルトレーニング（モチベーション）
・ハンドボールにおける怪我と応急処置について
・トレーニング調査・実践報告

NTS2005報告

NTSコーディネーター　田中　茂

2000年からスタートしたＮＴＳ、本年度も世界のハンドボール動向をしっかり見据えた上での充実した内容のトレーニングとなっております。また各地で行われますブロックトレーニングの日程・開催地が決定いたしました。基本的に全国統一いたしておりますが、各ブロックの運営スタッフが、独自に工夫をしている事と思います。より多くの指導者に会場に足を運び、観ていただければと思います。各会場共に見学は自由となっておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

以下、各ブロックトレーニングの日程、開催地をお知らせいたします。

NTS2005ブロックトレーニングスケジュール

ブロック	日程	会場
北海道	9／3・4	函館大学体育館
東　北	8／8・9	花巻市総合体育館
関　東	8／27・28	國學院栃木高校 日立栃木体育館
東　海	8／27 小中学生	岐阜アリーナ
	9／3・4 高校生	三洋電機スポーツセンター
北信越	8／9・10	柏崎市総合体育館

ブロック	日程	会場
近　畿	8／25	県立橋本体育館
中　国	8／3 小学生	湧永満之記念体育館
	8／9 中学生	
	8／24高校生	
四　国	8／27・28	高知女子大学体育館
九　州	8／12 小中学生	山鹿市総合体育館
	8／29 高校生	山鹿市総合体育館
	8／30 高校生	オムロン鹿陽センター

★NTS2005メインテーマ

得点力アップ

1−1.ディフェンステーマ
●アクティブ&オフェンシブ（keyword…連動）

1−2.目標（2005）
●得点力アップを目指した防御→速攻につながるDF
☆ボール獲得を目指す
≫パスインターセプト
≫密着マークからドリブルスティール
≫ミスの誘導
≫プレッシャーをかけた状態でのシュート

2−1.オフェンステーマ
●モビリティ&フレキシビリティ（keyword…スペース・走り込み）

2−2.目標（2005）
●積極的DFに対し、状況に合ったアイデアを持ち動く
☆ボールをもらう前の動き（バックプレーヤー）
≫ボールをもらう前の位置取りとボールのもらい方
≫けん制されたときの位置の取り直し
≫出ているディフェンスの裏への入り込み
☆ボールをもらう前の動き（ポストプレーヤー）
≫空間への走りこみ
≫オンボールプレー（ボールを受けて）
≫スクリーンプレー

3−1.ファーストブレイク（速攻）テーマ
●フォワード・ザ・ボール（keyword…クイック&バランス）

3−2.目標（2005）
●ファーストブレイク（速攻）による得点力UP
☆ボールをシューティングエリアへ早く運ぶ
≫位置取り・空間への走りこみ
≫少ないパスでフロントコートへボールを運ぶ
≫2次・3次速攻と連動性を持たせた攻撃の展開

4−1.ゴールキーパーテーマ
●ゲームリーディング（keyword…ポジショニング）

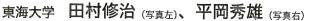
4−2.目標（2005）
●DFの状況を見越して、先取りできるようになる
☆DFとの連携
≫プレー（シューター）の選択を観察しシューターへの
≫DFとの位置関係の観察と準備
≫DFとの横関係だけでなく、縦関係の観察
☆DFとの連携以外
≫DFがかわされた場合の準備
≫チャレンジのキーピング

*本年度も8月・9月を中心に各地で開催されますNTSブロックトレーニングですが、各開催地責任者、インストラクター、関係各位におきましては色々な面でのご協力をお願いするかと思います、その際は宜しくお願い致します。

前号既報の第3回ハンドボールコーチング研究会の報告を今号より連載致します。誌面の都合で概要報告となりますので、詳しくは後日発行されます報告書を参照下さい。本コーナーのコーディネーターは舎利弗学さん（学法福島高校）にお願いしました。

世界トップチームの戦術

—日本チームと比較して—

東海大学　田村修治（写真左）、平岡秀雄（写真右）

目　的

日本チームはアテネ予選で韓国と引き分けた。韓国に勝つことは出来なかったが、20年振りに負けなかったこの意義は大きい。今、ここでより一層の成果を期待するためには、日本チームの現状を把握し、どの方向に進むべきかを検証する必要がある。

その為には、世界のトップチームの特徴を把握し、日本チームと比較することが大切である。そこで、本研究はハンドボールの攻撃に着目し、その攻撃導入形態及び攻撃終了時の形態に着目し、戦術的比較を試みた。

方　法

アテネオリンピックアジア予選日本対韓国戦及びアテネ決勝ドイツ対クロアチア戦を例に、戦術比較を行った。

1）分析の視点

分析に際し、攻撃導入時の形態を第1階層とし、攻撃終了時の形態を第2階層、攻撃の成否を第3階層として分析した。分析観点は以下に示したとおりである。

＊第1階層：攻撃導入形態は①3-3攻撃②ポジションチェンジ③3-3から4-2攻撃へ変化④4-2攻撃⑤1次速攻⑥2次速攻⑦3次速攻⑧6対5⑨5対6の9項目に分類し分析した。

＊第2階層：第2階層は防御ラインを突破するために使ったプレー①クロスプレー②ブロックプレー③パラレルプレー④個人的プレー⑤7mスローとした。

＊第3階層：攻撃成功、シュートミス、ボール保持ミスの3項目とした。

2）分析方法

東海大学研究補助金を得て、平岡、田村が開発した「戦術分析ソフト」を利用した。この分析ソフトは、分析観点を自由に設定できるので、ハンドボールだけでなく他の種目にも利用できるものである。

結果と考察

1）速攻

ドイツ：1次速攻および2次速攻の得点が多く、特に1次速攻の得点が多い。1次速攻では、すべて個人的プレーの得点であるが2次速攻では、組織的なパラレル攻撃が多く見られた。

クロアチア：ドイツ同様、1次速攻では、すべて個人的プレーの得点であったが、2次速攻では組織的なパラレル攻撃およびブロック攻撃が多く見られた。

日本：個人的プレーの1次速攻のみであり、組織的な2次速攻の得点はなく、速攻での得点が少ない。

2）遅攻

ドイツ：3-3攻撃においては、パラレル攻撃を中心にした得点が多い。ポジションが変化する導入形態としては、ポジションチェンジ、3-3から4-2攻撃へ変化する組織的な攻撃が多く見られ、かつパラレル、ブロックなどコンビプレーが多く見られた。個人的プレーでの得点は、非常に少ない。

クロアチア：導入形態としては、3-3攻撃を中心に展開し、プレー形態としては、クロス、パラレル、ブロックといったコンビプレーおよび個人的プレーの得点を含め、バランス良く得点している。ポジションチェンジ、3-3から4-2攻撃へ変化においては、得点が少ない。

日本：導入形態としては、3-3攻撃および3-3から4-2攻撃が多い。プレー形態としては、2つの導入形態共に、個人的プレーでの得点が多く、コンビプレーでの得点が少ない。

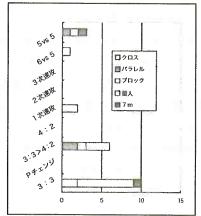
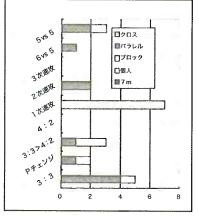
ま と め

1）速攻

近年の世界的な傾向であるが、速攻での得点が重要視されている。アテネオリンピックにおいても、世界のトップチームは、全体の得点の内、速攻での得点割合が30％以上を占めている。

今後、日本も速攻での得点力アップを目指す必要があるといえる。特に組織防御が不十分な状態での2次速攻、3次速攻を用い、組織的な速攻戦術が課題である。

2）遅攻

日本の攻撃は、3-3攻撃、3-3から4-2攻撃への変化を中心に展開し、導入段階では組織的な攻撃を展開し、世界のトップチームと同様である。しかし、プレー形態においては世界のトップチームと比較すると個人的プレーが多い。今後、2～3人でのコンビプレーを活用し、さらに精度を上げることが、日本が目指す必要がある。しかし、ただ単に世界のトップチームに倣うのではなく、日本に合ったプレーを選択する必要がある。

日本：得点における攻撃形態

ドイツ：得点における攻撃形態

第10回ヒロシマ国際ハンドボール大会大会要項

1.目　　的　1994年に広島市において開催された第12回アジア競技大会を記念して開催次年度から始まった大会で、今年は10回目の大会となる。

国際平和文化都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深める。

2.主　　催　（財）日本ハンドボール協会・日本ハンドボールリーグ機構・中国新聞社

3.主　　管　広島県ハンドボール協会・広島市ハンドボール協会

4.後　　援　広島県・広島市・広島県政育葬具会・広島布教育葬具会・（財）広島県体育協会・（財）広島市スポーツ協会・（財）広島平和文化センター・NHK広島放送局・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送・中国ケーブルビジョン・広島リビング新聞社

5.大会期間　平成17年7月22日（金）～7月24日（日）

6.競技会場　広島市東区スポーツセンター

7.参加チーム　男子4チーム

・日　本（ナショナルチーム）

・エストニア（チョコレートボーイズ）

・チヤイニーズタイペイ（ナショナルチーム）

・韓　国（コロサ）

8.日　　程

日付	対戦			時間
7／22（金）	① 韓　国	vs	エストニア	17：00～
	② 日　本	vs	ﾁﾔｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ	19：00～
7／23（土）	① 日　本	vs	エストニア	17：00～
	② ﾁﾔｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ	vs	韓　国	19：00～
7／24（日）	① エストニア	vs	ﾁﾔｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ	14：00～
	② 日　本	vs	韓　国	15：30～

日本トップリーグ機構を設立

チームゲーム復活に各競技が連携

バレーボールやバスケットボールなど低迷するチーム競技の復活を目的に、日本トップリーグ連携機構が24日、設立された。バレーボールVリーグ、日本ハンドボールリーグ、バスケットボール日本リーグ、同女子日本リーグ、アイスホッケーアジアリーグ、ホッケー日本リーグ、日本ソフトボールリーグ、ジャパンラグビートップリーグ、日本女子サッカーリーグが参加、各リーグの連携を通じて、国際競技力向上を目指す。

会長には日本体育協会会長でもある森喜朗前首相が就任、**専務理事は市原則之日本ハンドボール機構会長**が務める。副会長には張富士夫トヨタ自動車社長、川淵三郎日本サッカー協会会長、麻生太郎バスケットボール女子日本リーグ機構会長（総務相）の３人が名を連ねている。事務局は、東京都渋谷区の岸記念体育会館内に置く。

具体的な事業としては、（1）国際競技力向上へ向けた支援体制の充実（2）各リーグの活性化（3）スポーツ振興くじ（toto）の販売協力（4）選手キャリア支援の促進ーなどが挙げられている。

森会長は「チームゲームを五輪に出場させて、いい成績を収めるようにしたい。おのおのの垣根を越え、知的財産を交換し合いながら、国民に支持してもらえるようにしたい」と抱負を語った。　（情報提供：時事通信社）

2004～2005 シーズン終了

ブンデスリーグ終了

アテネオリンピック後チュニジアでの世界選手権をはさみながら長いシーズンが終了しました。ブンデスリーグでは私が個人的に応援しているフレンスブルグの２年連続のドイツ選手権と合わせた２冠達成はならなかったものの、先のドイツ選手権では３連覇を達成。

ブンデスリーグでは、キールに優勝は譲ったものの昨年以上の勝ち星を挙げました。負け数で劣ったものの優勝したキールには一度も負けておらず、ケントハリーも「少々残念ではあるものの中心選手の故障を考えれば、満足しなければならないシーズンではなかったのではないか」とコメントを残しています。

ヨーロッパ選手はタフである

私の活動もそろそろ終了しなければならなくなりました。昨年11月にスウェーデンに移住し、テレビでは60試合を超えるゲームを観戦し、隔週にフレンスブルグのトレーニングに参加、数々の国際トーナメントのLive観戦、など慌しく時間が過ぎました。

特に印象的かつ驚きだったことが２つありました。ひとつはヨーロッパの代表選手はとにかく「タフ」だということです。年間100試合を越えるスタミナを持ち合わせ、ファンやマスコミには常に100％のサービスをし、クラブの営業活動にも積極的に参加。プロだから当たり前ということも言えるでしょうが、では明日から日本人選手も環境をチェンジしますからどうぞご活躍を、と言われてもおそらく無理でしょう。しかも、彼らの活動は１年で終るものではありません。あるスポーツエージェントが言っていました。「欧州の選手が鉄製のビアカップであれば、日本の選手はワイングラスのように脆い」と。

ヨーロッパで感じたコーチングとマネジメント

次はコーチングについてです。私は今回の渡欧で、以前から興味のあったケントハリー・アンダーソンというコーチについて戦術面で何か吸収できればと思っていました。しかし、大間違いでした。彼がなぜブンデスで「ベスト」だと言われているのか、フレンスブルグのトレーニングに参加した時点ですぐに理解しました。フレンスブルグにはガンと戦う選手がいます。元ノルウェー代表、クリスチャン・ベルガ。おそらく今シーズン、ブンデスの中で一番観客から拍手喝采を浴びた選手でしょう。シーズン前にガンが見つかり体重が７kg マイナスになりながらシーズンを戦い続けてきた（現在は再び闘病生活を続けています)。選手がケントハリーの事を「ブンデスの中で一番選手の意見に耳を傾けるコーチだからな」と評するわけです。彼は必ず誰よりも先にコートに姿を現し、入念に計画されたトレーニングを時間・強度・疲労度を考慮しながら進めます。誰でも簡単に出来そうなことですが、57歳を迎える名コーチがトレーニング中一番大きな声を張り上げ、時にはジョークを交えながら選手のパフォーマンスを少しでも向上させようとする「姿勢」にはいつも感心させられました。ブンデスの中には、選手のコンディションや取り巻く環境は二の次で、クラブのマネージャーやスポンサー向きのコーチングをする輩が何人かいると聞いたことがあります。選手のパフォーマンスを引き上げることがチームの勝利に結びつき、クラブの繁栄に貢献すること。コーチングと言う手腕を通じて実践できていることもさることながら、コーチングの原点が世界のトップリーグにおいて存在した事実を確認できたことが、一番の収穫でもありました。このことは、私の今後の活動に大きく影響を及ぼすことになりそうです。

あっという間に過ぎた８ヶ月、ヨーロッパの懐の深さに助けられながら活動を続けてきました。少しばかり近くなった「本場」、活動スタイルは違うにしろ、今後も継続的に彼らとのつながりを保てるような活動を続けていきたいと考えています。

エストニア・タリンで。中央が酒巻氏、右端は元湧永製薬ブラマニス氏。酒巻氏の右側に座っているのは、柔道代表選手でインドレック・ペテルソン氏、大阪国際柔道の際、決勝戦で鈴木桂治選手に敗退して銀メダル。日本柔道連盟も彼の活動をサポートする程の人格者で、エストニアでも大人気者。

平成17年度　全国大会審判員名簿

（05, 5, 24現在）

大会名	開催地	期　日	審　判　員　氏　名
全国高校総体	千葉県	8/1 〜7	◎細沢　覚　○大橋幹正　○菅野　肇　○工藤康夫　○勝本章裕　○宮沢則夫　○大東秀明　○松本　宏 亀山　耕司・水谷　省一（北海道）　中舘　豊・多田　和生（岩　手）　千葉　俊之・満井　寿彦（宮　城） 仲田　稔・植村　彰（千　葉）　泉水　孝浩・田中　啓輔（千　葉）　福田　弘・富田　拓（茨　城） 四元　俊一・野中　毅（栃　木）　譲原　昭・栗田　与一（群　馬）　小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉） 永春　文義・安田　寛（東　京）　本田　義昭・本田　昭太（神奈川）　吉田　利和・矢崎　豊（山　梨） 山口　弘夫・岩上浩一郎（富　山）　半田　有完・増田　克洋（福　井）　池上　智・中村　行志（静　岡） 浅野　幹也・神谷　真次（愛　知）　岡辺　清和・濱口　雄飛（兵　庫）　寺内　啓之・細川　泰輔（大　阪） 佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪）　佐川　正巳・矢野　勝弘（奈　良）　飯島　浩太・末永　真一（山　口） 長谷部次雄・弘田　陸仁（高　知）　田中　靖浩・境　吉彦（佐　賀）　平良　徳彦・神里　太（沖　縄）
全国中学校	豊橋市	8/21 〜24	◎齊藤仁宏　○ 石垣　正樹・村瀬　清史（北海道）　比留間　康・江原　秀一（東　京）　阿部羅大造・浜野　大助（石　川） 大岩　広人・渡辺　紀之（静　岡）　楓　健児・河合　千丈（愛　知）　船谷　真和・丸山　竜司（三　重） 杉山　寛政・近藤田都哉（岐　阜）　川勝　宏治・川勝　裕義（京　都）
ジャパンオープン	三田市	女子 8/14 〜16	◎島田房二　○小山　勉　○　○ 長瀬　浩・池田　勝（埼　玉）　森　覚・福永　健一（奈　良）　藤井　俊朗・大熨　嘉彦（岡　山） 川崎　尚・梅本　司（山　口）
	神戸市	男子 8/13 〜16	◎島田房二　○小山　勉　○　○ 青木　秀樹・根来　英介（愛　知）　稲村　正・寿川　智博（埼　玉）　北嶋　浩・比留間　康（東　京） 武村　健吾・神戸　親（岡　山）　矢本　康成・神野　利雄（兵　庫）　松森三樹男・岡辺　清和（兵　庫） 長谷部次雄・弘田　陸仁（高　知）　檜崎　潔・池渕　智一（広　島）
実業団選手権	富山市	7/29 〜31	◎吉田敏明　○中山光広 中舘　豊・多田　和生（岩　手）　黒木　龍二・黒木　秀吾（東　京）　永春　文義・安田　寛（東　京） 家永　昌樹・福島　亮一（大　阪）　武智　誠治・川田　哲也（愛　媛）　久保　博・高野　修（広　島）
国民体育大会	岡山県	10/22 〜27	◎島田房二　○東　昌弘　○藤井俊朗　○大熨嘉彦 小笠原久郎・浜田　浩和（北海道）　矢本　康成・岡辺　清和（兵　庫）　山本　淳・山本　孝志（島　根） 野島　祥之・石原　秀和（岡　山）　三宅　秀明・森脇　雄治（岡　山）　武村　健吾・神戸　親（岡　山） 久保　博・高野　修（広　島）　加藤　晃・角　直樹（山　口）　池渕　智一・檜崎　潔（岐　阜） 多田　宣行・杉山　孝広（香　川）　武智　誠治・川田　哲也（愛　媛）　長谷部次雄・弘田　陸仁（高　知） 平島　哲也・久保野弘光（福　岡）　金子　弘明・児玉浩三郎（長　崎）　亀井　一寿・堀川　智宏（大　分） 冨永　卓公・和田　保典（宮　崎）　奥山　誠恒・海江田貴嗣（鹿児島）　中地　健三・与那嶺　哲（沖　縄）
全日本学生	川崎市	11/5 〜9	◎佐野和夫　○　○狩野幸介　○後藤　登 小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉）　本田　義昭・鈴木　和宏（神奈川）　浅野　明彦・荻野　俊（神奈川） 他のペアは学連より選出
全日本総合	福井市	12/21 〜25	◎島田房二　○中山光広 審査指導委員会にて選出
JOCカップ	堺　市	12/24 〜27	◎齊藤仁宏　○小山　勉 木内　隆夫・大脇　和春（新　潟）　青木　英樹・根来　英介（愛　知）　奥山　真司・田中　孝一（三　重） 杉山　寛政・近藤田都哉（岐　阜）　井上　清光・位田　敏夫（滋　賀）　佐久間良幸・山下　信之（京　都） 佐路　清孝・佐藤　晃（京　都）　伊藤　保仁・尾崎　浩祥（大　阪）　岸本　光夫・浅井　隆志（大　阪） 矢本　康成・神野　利雄（兵　庫）　佐川　正巳・矢野　勝弘（奈　良）　森　覚・福永　賢一（奈　良）
全国高校選抜	東京都	3/22 〜27	◎細沢　覚　○大橋幹正　○細谷安司　○宮沢則夫　○大東秀明　○飯名剛士　○大鐘雅善 山口　工・篠原　理（北海道）　安孫子　功・高橋　善浩（山　形）　中舘　豊・多田　和生（岩　手） 越智　康裕・小澤　邦紀（福　島）　安達　和雄・長谷川　剛（茨　城）　小西　正寿・山下　勝俊（栃　木） 勅使河原誠・戸塚　幸広（群　馬）　牧田　実・相坂　賢将（埼　玉）　佐々木和明・稲生　淳一（千　葉） 永春　文義・安田　寛（東　京）　浜田　浩和・小笠原久郎（東　京）　三浦　広美・木村　奨（神奈川） 大平　忠一・小山　吉明（長　野）　浅野　幹也・神谷　真次（愛　知）　佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪） 竹安　未央・吉田　達明（鳥　取）　小川　昌志・天野　誠司（徳　島）　貞島　早苗・井料　たか（佐　賀）
春の中学大会	氷見市	3/26 〜29	◎島田房二　○中山光広　○　○　○　○　○ 嶋川　直樹・工藤　道一（青　森）　萩原　亨・小松　大（秋　田）　小山　英人・服部　博幸（長　野） 小林　智隆・小川　浩（新　潟）　山口　弘夫・岩上浩一郎（富　山）　大石　克哉・桜打　佳（富　山） 金坂　英宣・川江　俊樹（石　川）　北中　弘規・山口　和博（石　川）　半田　有完・増田　克洋（福　井） 仲野　数也・藤坂　明雄（福　井）　楓　健児・河合　千丈（愛　知）　佐路　清隆・佐藤　晃（京　都） 寺内　啓之・細川　泰輔（大　阪）　矢本　康成・神野　利雄（兵　庫）　秦　隆二・秦　伊織（奈　良） 宮瀬　知周・牧　均（熊　本）　長瀬　浩・池田　勝（埼　玉）　黒木　龍二・黒木　秀吾（東　京）

◎は大会審判長、○は大会副審判長、未定部分は空欄

平成 17 ～ 18 年度ハンドボールの実践研究推進校の募集

1：趣旨　小学校における教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2：対象推進校　各都道府県協会より推薦された小学校の中から日本協会で８校程度選定する。

3：経費　日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。

4：応募の締切　平成 17 年７月 22 日（金）

5：申込、および問合せ先　応募の際には以下にお問い合わせ下さい。要項、応募用紙をお送りします。

（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表　佐藤　靖）
〒 010-8502　秋田市手形学園町 1-1　秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL/FAX：018 － 889 － 2577

平成 16 ～ 17 年度（財）日本ハンドボール協会選定実践研究推進校一覧

1 北海道：北海道教育大学附属釧路小学校（授業担当者　林　政孝）
2 千葉県：佐原市立津宮小学校（授業担当者　杉山真一）
3 埼玉県：八潮市立潮止小学校（授業担当者　会沢　実）
4 埼玉県：八潮市立八幡小学校（授業担当者　秋元伸也）
5 愛知県：名古屋市立小坂小学校（授業担当者　山下悠子）
6 鳥取県：境港市立余子小学校（授業担当者　仁科智也）
7 島根県：仁多町立阿井小学校（授業担当者　川角朋之）
8 福岡県：福岡市立別府小学校（授業担当者　児玉清孝）
9 佐賀県：佐賀大学文化教育学部附属小学校（授業担当者 諸永成樹）
10 鹿児島県：枕崎市立立神小学校（授業担当者　永倉仁貴）

平成 17 年度第８回ハンドボール研究集会の開催について

標記研究集会が、平成 17 年８月４日（木）と５日（金）の２日間、山鹿市総合体育館を会場に開催されます。対象は小・中・高等学校教諭、教員養成大学学生・大学院生・教官、そして地域スポーツ指導者・日本ハンドボール協会Ｊ級指導員等、日本ハンドボール協会主催、熊本県ハンドボール協会・山鹿市教育委員会主管、そして文部科学省・熊本県教育委員会後援（いずれも申請中）。

周知の通り、平成 10 年度に発表された小学校新学習指導要領において、ハンドボールが「ボール運動」領域の内容の取扱いの中で、「加えて指導することができる」教材として初めて採用されました。このことは、次のようなハンドボールの教材としての価値が認識されたためであると考えられます。すなわち①学校体育において、児童や生徒の投能力を中心とした体力・運動能力の低下が指摘されている昨今、ハンドボールは、それらの能力を養い高めるのに適していること。②加えて、他のボール運動より、教材づくりや戦術学習が容易であること。③さらに、小学１年生から６年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが認められたからであると思われます。また、小学校期にボールゲームとしてのハンドボールに親しむことは、生涯スポーツへの参加意欲を高めることにもなると思われます。

すでに新学習指導要領が全面実施されていますが、本研究集会では、「ボール運動教材としてのハンドボールーその８－」をテーマとして、以下の内容でハンドボールの魅力や諸特性に対して認識を深めると同時に、小・中・高を見通した中での子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修します。

日程　８月４日（木）：研究発表・講義［講師　文部科学省関係官（予定）］
実技研修［講師　東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校副校長　藤井喜一］・交流会
８月５日（金）：授業提案［小学校高学年「ハンドボール」授業（予定）・小学校中学年「ハンドボール」授業（予定）］
講演［講演者　秋田大学教育文化学部教授　林　恒明］

尚、参加費は 4,000 円（資料代、および保険料込み）で、当日受付にて徴収いたします。**参加を希望される方は、・氏名　・年齢　・勤務先　・連絡先住所・電話番号　・交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキまたはファックスにて大会事務局までお申し込み下さい。**締切り日は設けません。また、宿泊を希望される方も、大会事務局までお問い合わせ下さい。特に、研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、学校体育ハンドボール検討委員会事務局までお問い合わせ下さい。

学校体育ハンドボール検討委員会事務局
〒 010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1　秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤　靖気付
TEL：018 － 889 － 2577　FAX：018 － 889 － 2577　E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp
大会事務局　〒 860-0862 熊本県熊本市黒髪７丁目 101-3　熊本県ハンドボール協会内
TEL：096 － 249 － 3470　FAX：096 － 249 － 3470　E-mail：kumahand@abelia.ocn.ne.jp

㈶日本ハンドボール協会 平成17年度組織図
2005.6.11現在
名誉会長 米倉 功
会長 渡邉佳英（国際）
副会長 山下 泉（マーケティング）
同 上 市原則之（JOC・日本リーグ）
専務理事 大西武三（全般）
評議員会
各加盟団体 1名
理事会
監事
大野金一（法務）
竹野奉昭（全般）
殿水幸雄（財務・会計）
常任理事会
参与
安藤純光
中澤重夫
佐野和夫
顧問
徳永隆繁
鶴保庸介
八木秀紀
アドバイザー
杉山 茂
草井 由博
井 薫
アンチドーピング機構
※西山逸成・坂本静男
地域振興特別プロジェクト
オリンピック特別プロジェクト
日本リーグオーナー会
日本リーグ部長会
日本リーグ機構
会長 市原則之
副会長 山下 泉
常任委員会
規律委員会
観客動員対策委員会
地域活動・GM委員会
マーケティング委員会
日本リーグ委員会
総務本部
競技本部
強化本部
スケジュール本部
委員長 ♣川上憲太
事務局 茂木 均
佐藤美貴
GM 田中 茂
競技者育成技術委員会
♣大西武三
♣ 常任理事
◆ 理事
※ 参事
★ 専門委員会委員長
セクション担当者
プロジェクトチーム
女性委員会 ※上原 信子
がんばれハンドボール10万人会 ※中野利一
プロジェクト21 ♣大西 武三
競技本部
本部長 ♣江成元伸
副本部長 ♣島田房二
審判部 ♣島田 房二
審判委員会 ♣島田房二
審査指導専門委員会 ※川島克之
競技規則研究専門委員会 ★岸本光夫
国際専門委員会 ※後藤光登
日本リーグ専門委員会 ♣島田房二
総務専門委員会 ★花野誠一
視聴覚専門委員会 ♣島田房二
競技運営部 ♣江成 元伸
競技運営委員会 ♣江成元伸
用具検定専門委員会 ※大塚文雄
登録専門委員会 ♣江成元伸
スケジュール専門委員会 ♣江成元伸
強化本部
本部長 ♣蒲生晴明
副本部長 ★樫塚正一
強化部 ♣蒲生 晴明
強化委員会 ♣蒲生晴明
男子強化部会 ♣蒲生晴明
女子強化部会 ★樫塚正一
情報科学専門委員会 ★田中守
医事専門委員会 ※坂本静男
代表チーム
・ナショナルチーム 男・女
・U23 男・女
・ジュニア 男・女
・ユース 男・女
・U16 男・女
運営委員会NTS ※水上 一
普及本部
本部長 ♣角 紘昭
副本部長 ※笹倉清則
指導部 ※笹倉 清則
指導委員会 ※笹倉清則
研究部会 ♣平岡秀雄
普及部 ♣角 紘昭
普及委員会 ♣角紘昭
学校体育検討専門委員会 ※佐藤靖
中学生専門委員会 ★佐々木英明
小学生専門委員会 ★高田智史
ビーチ専門委員会 ※本間誠章
マスターズ担当 ★小山哲央
車椅子担当 ★小西博喜
総務本部
本部長 ♣村松 誠
副本部長 ♣平岡秀雄
会計部 ♣兼子 真
会計委員会 ♣兼子 真
財務部 ♣村松 誠
財務委員会 ♣村松 誠
広報部 ♣川上 憲太 副♣兼子 真
広報委員会 ♣川上憲太
機関誌専門委員会 ※北村善夫
インターネット専門委員会 ★出原理
国際部 ♣平岡 秀雄
国際委員会 ♣平岡 秀雄
総務部 ♣村松 誠
総務委員会 ♣村松 誠
叙勲表彰担当 ♣村松 誠
マーケティング本部
本部長 ♣木野 実
マーケティング部 ♣木野 実
マーケティング委員会 ♣木野 実
※萩原 宏人
※大橋 則一
理事 大畑 孝広（実 連）
福地 賢介（学 連）
森安 明雄（高体連）
小西 博喜（車椅子）
高山 重雄（東 北）
西村 亮治（東 海）
宮元 章次（九 州）
参事 武田 節夫（北海道）
稲生 茂（関 東）
大羽 隆夫（北信越）
串野 寛（近 畿）
野村 幹雄（中 国）
武田 末男（四 国）
山下 勝司（教職員）
佐々木英明（中体連）
古屋 正俊（高 専）
堀 美和子（Proj.21）
事務局
事務局長 ♣兼子 真
：全般、官公庁等外部折衝、国体関連、登録、JOC・日体協対応
局次長 ★茂木 均
：日本リーグ機構事務局長
★田中 茂：日本リーグ機構GM担当
★本多 正樹：強化事業、競技運営
★平賀とみ子：会議、総務、庶務、国際関連、強化事業
★佐藤 美貴：日本リーグ庶務、10万人会、機関誌、強化他
★世戸 京子：会計、予算・決算書作成、用具検定、物品・審判用具管理

平成16年度3月常務理事会兼臨時理事会

日　時：平成17年3月19日（土）
09：30～12：00
場　所：駒沢体育館南控室
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、理事合計16名（内旧理事15名、新理事16名）、監事3名、事務局4名

審議事項

1. 平成17・18年度理事担当役職について

2月5日に行われた評議員会では、加盟団体選出について会長に一任されたことが報告された。続く2月19日理事会で評議員会一任を受けた会長より18名の理事が提案され、承認された。理事の具体的担当役職は、次回の常務理事会に一任。参事については今後常務理事が推薦し、4月2日の常務理事会で承認する。

2. 平成16年度予算執行状況及びペイオフ対策他について

年度始めは、JOC、日体協などからの補助金の入金が遅くなることがあるため、事業執行にあたっては北京積立金を一次的に流用する場合があることを了解。

4月解禁のペイオフ対策について了承。

3. 平成17年度事業予算修正案（6月の1次補正の参考）について

協会挙げて蒲生強化体制をバックアップする。強化部では緊縮予算案で対応するが、平成17年度は強化費の削減も含め削減補正を6月に提出する。各部門でも危機感を持って臨む。

評議員会2回分の交通費を各都道府県協会にお願いし、日本協会として負担しないことを提案。

AHF指名レフェリーの渡航費についてはAHFに確認する。

4. 平成17年度事業予算執行に伴う申請書（支出伺い書）変更について

申請書（支出伺い書）の様式を現行の予算書科目に合わせた様式の申請書に変更する。出張の場合は出張届を添付する。

5. 強化関係（男女監督、国際大会参加、平成17年度予算など）について

①男女ナショナル監督について経過報告が成された。
②国際大会ではJOCランキングを上げるためにも一つ一つの大会で勝つことが大切。
③今後の国際大会について：5月末のソウルカップに出場。広島国際は男子、招待チームに監督、強化委員会に一任。
④予算についてはマーケティングのプロが行う必要性がある。

今回のプレーオフの映像を編集したDVDを作成し、販売して協会資金に当てる。

強化資金作りに関しては、各カテゴリー毎に計画、組織作りについて検討する。

6. 地域振興プロジェクトについて

U－15のブロック大会の定義を地域の交流大会まで枠を広げて助成を行う。助成の対象はブロックで選定。ブロック大会の位置づけについては今後検討。

7. 平成18年度登録について（進捗状況）

平成18年度からの登録制度について現在までの進行状況を報告。引き続き審議してゆくことが確認。

8. 平成17・18年度JOC各委員選任について

名簿を提示。

9. 6月IHFコーチ・レフェリーシンポジウム（タイ）

強化部と審判部から出席する。

10. 個人情報保護関連の文書・規程などについて

協会としての考え方が示された。

11. その他

①4月の東アジアクラブ選手権の帯同レフェリーとして福田・冨田ペア（茨城）。
②ジュニアのアジア選手権（2006）の開催を検討する。

報告事項

1. 国際大会スケジュールについて

資料を提示・報告。

2. 2005海外大会情報について（ホームページ掲載）

資料を提示・報告。

3. がんばれハンドボール10万人会

資料を提示・報告。

4. その他

①越智氏からの寄附の報告。既に協会長名で感謝状。
② totoデビッドカードについて説明。更なる活用が必要。

［その他資料］
①国際関係資料
②事務局連絡資料
③平成16年度第3回理事会議事録、平成16年度第2回評議員会議事録

平成17年度4月 常務理事会

日　時：平成17年4月2日（土）
場　所：日本青年館MR－1
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事6名、監事1名、事務局3名

審議事項

1. 強化関係について

①本年のヒロシマ国際大会の招待チームはエストニア・ナショナルチーム、オーストリア・クラブチーム（ALプレゲンツ）の参加承諾、クウェートからは未回答であるが全日本を加えた4チームで行う予定。
②男子監督には2007年の世界選手権までとし、大会評価で継続を検討することで契約。
③女子監督については現監督から辞退の申し出があり、後任についての案が提出された。
④ナショナルスタッフチーム設置について説明がされた。

2. 平成17・18年度役員担当について

3. 平成17・18年度事参事及び組織図について（2.3同時審議）

上記資料が提出され、説明された。

4. 平成17・1各年度評議員選出について

推薦未提出県があり、出そろい次第書面で評決を行う。

5. 平成18年度登録制度、登録金について

資料により、カテゴリーの細分化、個人登録金の値上げ、導入について説明。今回の意見を参考に、改めて原案を提出する。

6. 新規大会春の中学生大会の補助金について

上記大会は強化に向けても価値ある大会であり、日本協会補助金として200万円を新規計上する。

7. 平成17年度オフィシャルスポンサー（サプライヤー）について

アシックス、エモックについて説明がなされた。

報告事項

下記項目について資料で説明された。

1. 平成17年度国内・国際大会日程について
2. 第10回ヒロシマ国際要項について
3. 平成17年会議日程について（岡山国体会議日程案）
4. 第29回日本ハンドボールリーグ「ANA CUP」プレーオフ結果
5. 平成16年度第28回全国高等学校選抜大会結果

［その他資料］
①事務局連絡資料
②国際関係資料（国際大会スケジュール）
③平成16年度3月常務理事会兼臨時理事会議事録

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【北海道】武田節夫、清水誠一、加藤慶仁　【岩手】上町祐隆、畠山　正、太田利彦、高橋元一　【栃木】石田正彦　【群馬】高橋萬知子、高橋　泉　【埼玉】西濱弘幸、佐藤秀明　【千葉】高橋勝彦　【東京】塩川安賢、緑川正博、出原　理、兼子真、杉山　茂、中澤重夫、後藤明美、梶間珠美　【神奈川】斎藤達也、吉澤　美、近久紀人、佐分正典、松岡正彦、小澤摩里子、斉藤航大、澤田誠二　【長野】加藤雅之　【富山】早藤　績　【石川】酒谷信彦　【福井】太田　博　【愛知】浅野克彦、安藤　孝、西川勤也、村木啓作、浅野幹也、藤澤　健、金川康夫　【岐阜】森　勝博、森　三千世　【京都】久保公雄、久保靖子、林　優里、佐野知治　【大阪】大井隆史、神田　清、吉田敏明、車　真佐克、小山　章、伏田清美、草ノ井文子、子、大西和雄　【兵庫】西澤倫雄　【和歌山】能木　進　【広島】大橋季彦、山下明子、有田　忍　【愛媛】松原一恵、松原誠起　【福岡】下田昭弘、田中　守、佐伯紘一、松尾勝也、和佐野健吾　【熊本】中川光明　【大分】阿部末忠

【7月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

7月24日（日）　常務理事会（広島）

【大会】……………………………………………………

7月8日（金）～10日（日）
第26回全国クラブ選手権大会・西（兵庫）

7月16日（土）～18日（月）
第25回全国クラブ選手権大会・東（福島）

7月21日（木）～24日（日）
第7回ワールドゲームズ・ビーチハンドボール（ドイツ）

7月21日（木）～24日（日）
第10回ヒロシマ国際大会（広島市）

7月27日（水）～31日（日）
高松宮杯第46回全日本実業団選手権大会（富山市）

7月29日（金）～31日（日）
第13回全日本マスターズ大会（大阪市）

7月29日（金）～31日（日）
第18回全国小学生大会（京田辺市）

寄　付

5月20日、愛媛県の越智武さんより日本協会宛に寄付をいただきました。ありがとうございました。

HAND BALL CONTENTS Jul

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

HVN300／HVN200の特徴

1 **人工皮革**
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 **フォーム層**
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 **補強層**
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 **ラバーチューブ**
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます

MIKASA®
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ　〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2　TEL.082-237-5145　FAX.082-238-1252　www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六一号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可　平成十七年六月二十六日印刷 平成十七年七月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円